

## IV-120

## 作家の居住地選択要因および居住環境評価に関する研究

宮崎大学 大学院 河口 智治

宮崎大学 大学院 高村 恵多

宮崎大学 正会員 吉武 哲信

1.はじめに 過疎化が進む地域では振興策として社会基盤施設の整備が行われることが通常である。しかし、この対策のみではそれに歯止めがかからないことも事実である。このことから住民がその地域に住むことの意義と誇りを自覚し、地域の潜在的資源を発見できるような積極的な意識の形成、すなわちコミュニティの活性化への関心が高まっている。著者らは既に、住民と異なった価値観や感性を持ち、コミュニティ活性化に大きな役割を担いうと考えられる作家を対象とし、彼らとコミュニティの活性化の関係を論じてきた<sup>1)4)</sup>。しかし、作家がその地域に移住するための条件や目的については未だ明らかではない。また移住先の環境次第では、作家は再び他の地域へ移住する可能性もあるため、転出意向や居住地環境の評価に関する分析も必要である。

そこで本研究では、実際に移住した作家にアンケート調査を行い、移住した際の居住地選択要因とその地域での居住後の居住地環境の評価および転出意向について分析を行うものである。

2.調査の概要 アンケート調査は、宮崎県東諸郡綾町と福岡県糸島郡志摩町で行った。綾町では平成8年7月下旬、志摩町では平成9年6月下旬に、訪問留置訪問回収法で実施した。回収状況を表-1に示す。綾町の作家の有効票率が低いのは、もともと対象地域出身で町外転出経験のない作家を分析対象から除外したためである。

アンケートの内容は大きく3つに分けられる。すなわち作家の属性(活動分野、性別、年齢、出身地)、居住地選択要因および居住環境に対する評価である。居住環境に対する評価については創作環境(自然環境の良さ、静かさ、原材料の入手・作品の販売ルートの確保のしやすさ、観光客の多さなど)、近隣環境(地元の人々との交際について)、居住地環境(自然環境の良さ、静かさ、最寄りの都市への近さ、学校・教育

表-1 アンケートの回収状況(人)

|    | 配布票数 | 回収票数 | 有効票数(%)   |
|----|------|------|-----------|
| 綾  | 26   | 24   | 15(62.5%) |
| 志摩 | 10   | 8    | 8(100.0%) |
| 合計 | 36   | 32   | 23(71.9%) |

機関の利便性、病院・公民館などの公共施設の利便性)ごとの評価、およびこれらを総合した評価と今後の定住意向について質問を行った。

回答した作家の属性を表-2に示す。活動分野を見ると綾の作家は約半数(15人中7人)が木工であり、志摩の作家はほとんど(8人中6人)が陶芸である。年齢層は40、50代が多い(23人中18人)。女性は1人のみである。出身地では、作家または配偶者が対象地域出身が23人中10人(43.5%)で高い割合を示す。また対象地域出身者を含めて県内出身がほとんどである。

### 3.居住地選択要因および居住環境評価の分析

1)分析の方法 単純集計による分析とあわせ、どのような作家が、どのような居住地選択を、あるいはどのような居住環境評価を行っているかを総合的に明らかにするために、回答カテゴリーへの反応の類似性を、数量化Ⅲ類によるカテゴリースコアを用いたクラスター分析で明らかにする。この際、全てのカテゴリーを同時に分析することが望ましいが、サンプル数との兼ね合いから、表-2に示す作家の属性の区分ごとに分析を行った。ただし、[性別]は女性が1人のみなので除外した。本稿では、特に興味深い結果が得られた[作家の出身地]と、居住地選択要因および居住環境評価との関係に的を絞って述べる。

2)居住地選択要因の分析 表-3に、居住地選択要因に関する単純集計の結果を示す。(⑤自然環境がよい)を選択している人が16人と多い。(⑥静かさ)もあわせ、自然が重視されていることがわかる。また(⑩親類縁者の存在)が多いのは、対象地域出身の作家が多いことと関連があろう。居住地の条件がある創

キーワード：作家、居住地選択要因、居住地評価

連絡先：宮崎市学園木花台1-1 宮崎大学工学部土木環境工学科 Tel.0985-58-2811 Fax.0985-58-1673

表-2 創作家の属性（人）

| 質問項目   | カテゴリ名       | 続  | 志摩 |
|--------|-------------|----|----|
| 創作家の属性 | 活動分野        |    |    |
|        | 陶芸          | 3  | 6  |
|        | 木工          | 7  | 1  |
|        | その他         | 5  | 1  |
| 性別     | 男           | 15 | 7  |
|        | 女           | 0  | 1  |
| 年齢     | 20代         | 1  | 0  |
|        | 30代         | 2  | 0  |
|        | 40代         | 5  | 5  |
|        | 50代         | 6  | 2  |
|        | 60代         | 1  | 1  |
| 出身地    | ①創作家が対象地域出身 | 4  | 2  |
|        | ②創作家が県内出身   | 6  | 5  |
|        | ③創作家が県外出身   | 2  | 0  |
|        | ④配偶者が対象地域出身 | 3  | 1  |

表-4 （創作家の出身地）と（居住地選択要因）のカテゴリ分類

|        |                                                                                                     |
|--------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| クラスター1 | ①創作家が対象地域出身<br>⑨知人・友人の存在                                                                            |
| クラスター2 | ②創作家が県内出身<br>⑤自然環境がよい<br>⑪その他の居住地選択要因<br>⑫条件あり（近隣都市の規模）<br>⑭条件あり（近隣都市への時間）                          |
| クラスター3 | ③創作家が県外出身                                                                                           |
| クラスター4 | ④配偶者が対象地域出身<br>⑥静かさ<br>⑦土地の確保のしやすさ<br>⑧原材料の入手のしやすさ<br>⑩親類縁者の存在<br>⑬条件なし（近隣都市の規模）<br>⑮条件なし（近隣都市への時間） |

表-6 （創作家の出身地）と（居住地評価）のカテゴリ分類

|        |                                                                                                                                                  |
|--------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| クラスター1 | ①創作家が対象地域出身<br>②創作家が県内出身<br>④配偶者が対象地域出身<br>5(創)満足している<br>7(近)満足している<br>8(近)どちらともいえない<br>10(居)満足している<br>13(総)満足している<br>14(総)どちらともいえない<br>15住み続けたい |
| クラスター2 | ③創作家が県外出身<br>12(居)不満である                                                                                                                          |
| クラスター3 | 6(創)どちらともいえない<br>9(近)不満である<br>16出来れば転出したい                                                                                                        |
| クラスター4 | 11(居)どちらともいえない                                                                                                                                   |

表-3 居住地選択要因（人）

| 居住地選択要因           | カテゴリ名                | 続  | 志摩 |
|-------------------|----------------------|----|----|
| 居住地選択要因<br>(複数回答) | ⑤自然環境がよい             | 11 | 5  |
|                   | ⑥静かさ                 | 6  | 2  |
|                   | ⑦土地の確保のしやすさ          | 4  | 1  |
|                   | ⑧原材料の入手のしやすさ         | 3  | 0  |
|                   | ⑨知人・友人存在             | 2  | 1  |
|                   | ⑩親類縁者の存在             | 5  | 3  |
|                   | ⑪その他の居住地選択要因         | 6  | 3  |
|                   | ⑫条件あり（近隣都市の規模）       | 2  | 3  |
|                   | ⑬条件なし（近隣都市の規模）       | 13 | 5  |
|                   | ⑭条件あり（近隣都市への時間）      | 3  | 5  |
|                   | ⑮条件なし（近隣都市への時間）      | 12 | 3  |
|                   | 居住地の条件<br>(近隣都市の規模)  |    |    |
|                   | 居住地の条件<br>(近隣都市への時間) |    |    |
|                   | 居住地の条件<br>(近隣都市への時間) |    |    |

表-5 居住環境評価（人）

| 居住環境評価  | 質問項目 | カテゴリ名          | 続  | 志摩 |
|---------|------|----------------|----|----|
| 居住環境評価  | 創作環境 | 5(創)満足している     | 14 | 7  |
|         |      | 6(創)どちらともいえない  | 1  | 1  |
| 近隣環境    |      | 7(近)満足している     | 9  | 3  |
|         |      | 8(近)どちらともいえない  | 6  | 3  |
|         |      | 9(近)不満である      | 0  | 2  |
|         |      | 10(居)満足している    | 12 | 8  |
| 居住地環境   |      | 11(居)どちらともいえない | 1  | 0  |
|         |      | 12(居)不満である     | 2  | 0  |
|         |      | 13(総)満足している    | 13 | 4  |
|         |      | 14(総)どちらともいえない | 2  | 4  |
| 総合評価    |      | 15住み続けたい       | 14 | 7  |
|         |      | 16出来れば転出したい    | 1  | 1  |
| 今後の定住意向 |      |                |    |    |
|         |      |                |    |    |

作家は(⑫近隣都市の規模)については5人(21.7%)、(⑭近隣都市への時間)については8人(34.8%)で、近隣都市の規模よりも近隣都市への時間の方が優先されているようである。

〔創作家の出身地〕と居住地選択要因のカテゴリを用い数量化Ⅲ類およびクラスター分析を適用した。クラスター分析は数量化Ⅲ類の第3主成分(累積寄与率58.9%)までを用いた。結果を表-4に示す。

クラスター1には、対象地域出身の作家が対応している。(①対象地域出身の作家)は(⑨知人・友人の存在)を重視しているといえよう。クラスター4では、(④配偶者が対象地域出身)の作家が対応する。彼らも対象地域に配偶者の実家または土地があると考えられ、それゆえ(⑦土地の確保のしやすさ)、(⑩親類縁者の存在)との結びつきが強いといえる。クラスター2は、(②県内出身の作家)が対応している。彼らは、(⑫条件あり(近隣都市の規模))や(⑭条件あり(近隣都市への時間))を重視して移住している。すなわち彼らは都市との関わりを重視する傾向がある。クラスター3には(③県外出身の作家)2人が対応するが、彼らは綾町から誘致された経緯があり、他の作家とは異なる選択を行ったと考えられる。

3) 居住環境評価の分析 表-5に、居住環境評価に関する単純集計の結果を示す。創作環境、居住地環境と総合評価については、それぞれ91.3%、87.0%および73.9%の作家が満足しているが、近隣環境については52.2%の作家しか満足してないことがわ

かる。

〔創作家の出身地〕と居住環境評価に同様の分析を適用した。分析は、第3主成分(累積寄与率59.3%)までを用いた。分析結果を表-6に示す。

クラスター1とクラスター2を比較すると、出身地が県内と県外で明確に居住地環境の評価に違いがあることがわかる。すなわち(①創作家または④配偶者が対象地域出身)は高く、(③県外出身の作家)は低く評価している。クラスター3からは、(16出来れば転出したい)と思っている作家は(9近隣関係に不満)を持っていることがわかる。また、クラスター4は、(11(居住地環境)どちらともいえない)を選択した作家が分類された。

4.おわりに 本研究の結果から、創作家を誘致する場合は出身地が対象地域により近い創作家の方が効果的といえよう。また県外出身の創作家の誘致のためには、その地域の情報の提供や、また移住後の地域教育も必要と考えられる。今後、創作家のサンプル数を増やすとともに、その他の要因を含めて分析を行っていく必要がある。

#### ＜参考文献＞

- 1) 會員圭子ほか：農村で定住する創作家と地域コミュニティの関係に関する基礎的研究、土木計画学会研究講演集 19(2) .pp.597-600,1996.
- 2) 高村恵多ほか：住民と地域外部者との交流と創作家の居住について、土木学会第52回年次学術講演会講演概要集 第4部 .pp.328-329,1997.
- 3) 高村恵多ほか：農村に定住する創作家と地域コミュニティとの交流に関する研究、土木計画学会研究講演集 20(1) .pp.87-90,1997.
- 4) Tetsunobu Yoshitake, et al.: Role of Local Artists in Enhancing Community Development in Aysa, a local town in Japan, Regional & Urban Development Conference, New Zealand, 1997.